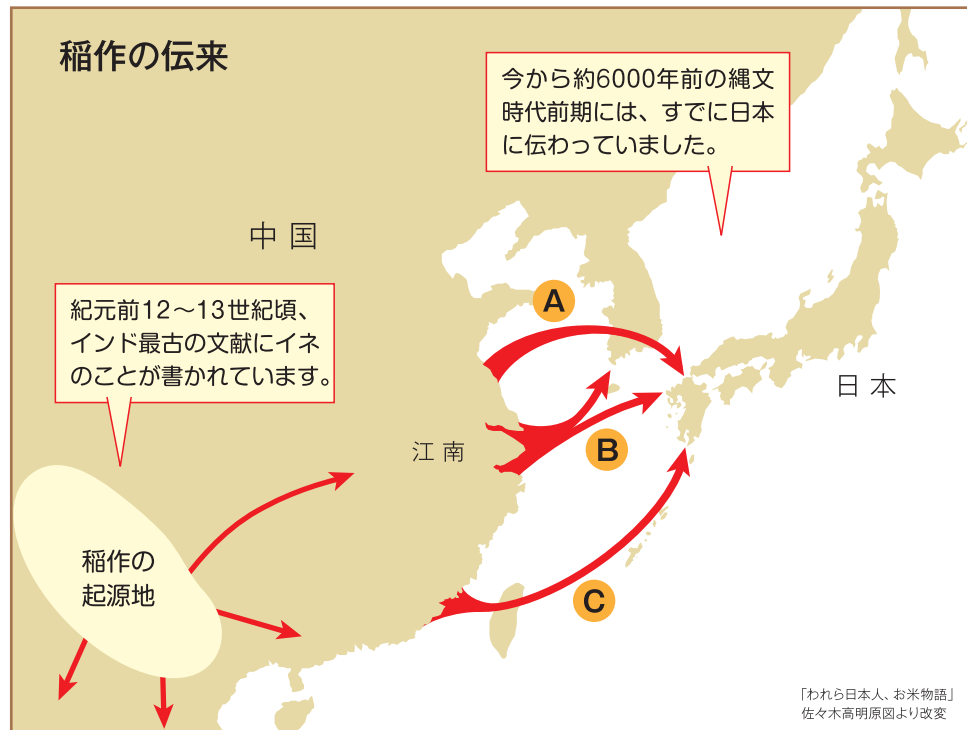


# ① 米はいつ、どのようにして日本に伝わってきたの？

みずみずしい稲穂のみつる国といわれるように、米は長い年月をかけて、政治、経済、文化、宗教といった幅広い分野で私たち日本人の生活に根付きました。この米は、いつ、どのように日本に伝わり、どのようにして、国内に広がっていったのでしょうか。



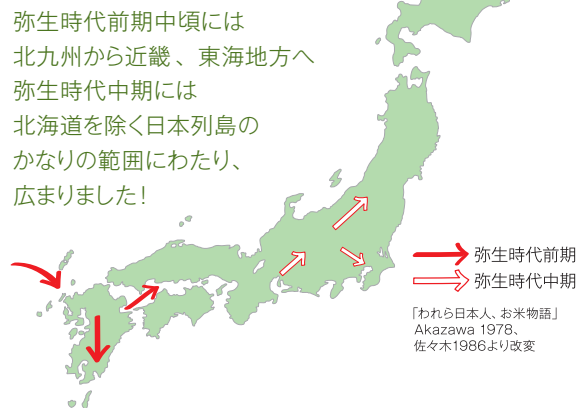
- A** 中国江南地方から海路で朝鮮半島に伝わり、そこから北九州へ伝わる。
- B** 中国江南地方あたりから直接、北九州方面に伝わる。
- C** 中国から沖縄の宮古島を経由して奄美の島々を北上、九州南部に渡来する。

イネが初めて栽培されるようになったのは、インドのアッサム地方から中国の雲南省にかけての山間部と考えられています。ここから、インド、南アジアへと伝わり、さらに東南アジアや東アジアへも伝わったと考えられています。中国では、すでに1万年前頃の遺跡から米などが発見されています。日本に伝わったのは、今から約6000年前の縄文時代前期。伝わった経路は図のようにA～Cなどがあるとされ、この中で最も有力なのがBの経路です。



## 中国大陸から伝わってきた稲作は日本国内で急速に広まりました！

水田稲作が本格的に始まったのは、縄文時代晩期から弥生時代に入ってから。そして、九州地方で始まった稲作は、稲の品種が日本の気候風土に合っていたため、急速に日本各地に根付き、今日まで続いています。



### 水田稲作が日本に定着したのはなぜ？

- 温帯ジャポニカと呼ぶ品種が日本の気候風土に合っていたから
  - 田植えの時期が雨に恵まれているから
  - イネが生ずる夏は日射量が多く、気温が上がるから
  - 稲穂が実る時期の空気が朝夕冷涼で乾燥しているから
- 同じ田んぼで連作できるので国土が狭い日本には最適だったから

### 弥生時代の人たちはどんなものを食べていたの？

身近にあるものをいろいろ食べていました！

稲文時代は狩りや魚や貝を獲ったり木の実を採って生活していました。水田稲作が本格的に始まった弥生時代には、狩猟・漁労・採集生活から農耕生活へと変わっていきましたが、米以外にも様々な食べ物を食べていたようです。

- 穀類 (米、大豆、そば、粟、ひえ、小豆、緑豆など)
- 木の実 (とちの実、くり、くるみ、しいなど)
- 野菜 (ごぼう、まくわうり、ゆうがおなど)
- 魚介 (さめ、えい、たい、まいわし、さば、あじなど)
- 野山の動物 (野うさぎ、いのしし、日本鹿、たぬきなど)

## 「和食；日本人の伝統的な食文化」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

「和食」を、料理そのものではなく、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」として位置付けています。

「和食」の特長

- ① 多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重
- ② 栄養バランスに優れた健康的な食生活
- ③ 自然の美しさや季節の移ろいの表現
- ④ 正月などの年中行事との密接な関わり

**ユネスコの無形文化遺産とは**

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が、無形文化遺産保護条約により、世界各地の伝統芸能や社会的習慣、儀式などを登録して保護する制度です。

「和食」は外国人にも注目の的に

海外でもおいしさや健康面から「和食」の良さが注目され、和食レストランなどが増えて人気となっています。また、訪日する外国人が最も楽しみにしていることは、「日本食」を食べることと観光の目的のトップに挙がっています。

資料：国土交通省 観光庁「訪日外国人の消費動向調査」